

SUGO 西で5連勝獲得のユウ選手、PN3連覇確定!



第1ヒートで驚愕のベストタイムをマークしたユウ選手。タイトル確定の一大一番は、ブッチぎりの逃げ切り優勝で5連勝を決め、昨年に続く2018年のPN3タイトルを確定させた。

全

日本ジムカーナ選手権は、スポーツランドSUGO西コースで第7戦を迎えた。ここ菅生での全日本ジムカーナ開催は実に7年ぶり。本大会ではPN4が不成立となったが、94台が西コースに集結して、タイトル確定の天王山に挑んだ。

決勝コースは、新設されたコース中央部のショートカットを境界に、外周を2周する前半区間と、鋭角コーナーに8の字や180度ターンが続くテクニカルな後半区間の組み合わせ。

カントが付いた西コース独特の路面は、傾斜地に置かれたパイロンターンを含めて、勝敗を大きく左右する攻略ポイントとなっていた。

ここまで4連勝を挙げている2017年PN3チャンピオンのユウ選手。川北忠選手や西野洋平選手、天満清選手、若林隼人選手に可能性が

あったPN3のタイトル争いも、ユウ選手が菅生で優勝すればタイトルが確定する状況となっていた。

公開練習では川北選手が意地を見せ、約コマ7秒差を付けるトップタイムをマークした。ユウ選手は2番手で後塵を拝したが、表情に焦りは見られず、すべての照準を決勝第1ヒートに合わせて粛々とデータ解析に励んでいた。

決勝日。天気予報は「曇り」を示していたが、早朝は強い日差しが照り付けた。路面温度が高くなると、PN部門では第2ヒートでのタイム更新が難しくなる傾向があるため、第1ヒートから確実にタイムを残す必要がある。

PN3の第1ヒート。2015年の東北PN2チャンピオン藤原雄司選手が1分26秒台のターゲットタイムを刻んだ。ロードスターRFを駆

る天満選手と、86後期にスイッチした西野選手も1分26秒台で暫定ベストを更新。そして、続く川北選手は、1分25秒560という後続を約1秒引き離す驚愕のベストで気を吐いた。

しかし、最終走者のユウ選手は、やや姿勢を乱しつつも前半の高速区間を通過し、後半のテクニカルを綺麗にキメてフィニッシュ。クラス唯一の1分24秒台を叩き出し、1分24秒894というスーパーラップで暫定トップに躍り出た。

第1ヒート後半には小雨が降る不安定な気候となったが、第2ヒートには天候も安定した。しかし、PN1やPN2ではタイムが更新されず、第1ヒートで勝負が決する状況となった。

PN3でもほとんどの選手が自己タイムを更新できず、川北選手やユウ選手はパイロンペナルティに沈んでしまった。この結果、ユウ選手



PN3 / 1.今季5連勝でPN3タイトルを確定させたユウ選手(右)と、ひと足先にPN2タイトルを確定させた山野哲也選手。2.後期86に乗り換えたPN3西野洋平選手。「ようやく違和感なく乗れるようになってきました」という段階で、今回は届かず2位に。3.ベテラン川北忠選手は3位に終わる。「昨日までのいいリズムが崩れました。正直、タイトル争いは厳しいと思ってましたが、意識しちゃいましたね。まだまだ青いです」とうなだれる。4.藤原雄司選手がPN3の4位で殊死賞。5.PN3の5位は天満清選手。

が第1ヒートのタイムで優勝。今シーズン5連勝をモノにして、PN3の2連覇を確定させた。「もっと曇ると思っていたので、1本目でキメるのが目標でした。ライバルは高温寄りでのアドバンテージを増してましたし、金曜から負け続けていたので、楽観視はできませんでした。今回のカギは『8の字』だったと思います。車

速を落とすしすぎず、いかに小さく回るかですね。でも、菅生はかなり久々だったので、マイチ掴みきれないところもありました。1本目は思い通りに走れましたし、悔やむミスはなくて、タイムが出た感触もありました。でも、高速区間では西野選手に負けたので、まだ改善の余地はありますね。よくまとめられた

な、というのが正直なところですよ(笑)。これまで4連勝しましたし、今回は5連勝で決めたかったので、うまくいきました(笑)。残りの大会でも気を抜かず、2年連続『満点チャンプ』を決めたいと思っています。今年からレース活動も平行するユウ選手。一つの目標を成し遂げ、新たな挑戦にも邁進する。



SA2&SA3 / 6. 第1ヒートでクラス唯一の1分23秒台を計測して優勝したSA2佐藤巧選手。「勝負の区間でシフトミスしたのではもう悔しい! でも結果オーライです」と苦笑する。急なセッティング変更に対応してくれた髭田光二氏にも感謝の意。**7.** SA2の2位は朝山崇選手。**8.** 第1ヒートを20秒ものペナルティでファイにしたSA2澤平直樹選手が第2ヒートで3位に。**9.** SA3は西森顕選手が連勝。「仕事の都合で金曜を走れなかったんですが、路面温度が違いすぎたので、先入観なく今日の路面を冷静に走れたのが良かったですね」と笑顔。**10.** SA3の2位は渡辺公選手。**11.** 第2ヒートの出走直前に車両トラブルに見舞われたSA3小保洋平選手。川北選手を始めとした仲間



PN1&PN2&SA1 / 12. 後続を約1秒引き離す第1ヒートのタイムで優勝したPN1齊藤邦夫選手。「シリーズは福田選手をあまり引き離せなかったけど、気を引き締めて後半に臨みます」と3点差でシリーズ首位を走る福田大輔選手を追い詰める。**13.** PN1の2位は福田大輔選手。**14.** PN1上野健司選手は今季3度目の3位。**15.** PN2の2位は河本晃一選手。**16.** PN2の3位は松本悟選手。**17.** PN2優勝は山野哲也選手。自身18回目のタイトル確定だ。「菅生の勝率

は高いんだけど、今回はZ(河本晃一選手)が相手だったので苦しかった。自分の出せるものをすべて出した勝利だったね」と安堵の表情。**18.** SA1若林隼人選手がクラス唯一のシーズン3勝目を挙げたも「実は今回は2本ともセッティングをミスったので苦しい戦いでした。みかわでもダメダメだったので要修業です」と反省する。**19.** コンマ013秒差の2位はSA1志村雅紀選手。**20.** そしてコンマ048秒差の3位はSA1小武拓矢選手。



SA4&SC / 21. 第1ヒートは珍しいドライビングミスを喫したSA4菱井将文選手が第2ヒートで逆転勝利。「今日は1本目でブチぎったろと思ってたけど、ペダルの操作ミスで散々。それで2本目は置きに行き過ぎてタイムは全然納得いってない」と苦笑する。**22.** SA4の2位は飯塚忠司選手。**23.** SA4の3位は佐藤裕樹選手。優勝でタイトル確定の可能性があった津川信次選手は、2ヒートともペナルティで7位に沈む。**24.** SCは野尻隆司選手が逆転優勝。SCでは2度目の勝利を獲得した。「金曜から菅生を研究し尽くして、2本目は路面温度もちょうどいいくらいに上がったので、最後の最後にドンピシャでハマってくれた感じです」と笑う。**25.** 第2ヒートでコンマ089秒足りなかった西原正樹選手がSCの2位。**26.** SCの3位は牧野タイソン選手。